

採択拠点の拠点形成概要・採択理由

【分野名：革新的な学術分野】

機 関 名	金沢大学
拠点のプログラム名称	発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成
中核となる専攻等名	医学系研究科脳医科学専攻
事業推進担当者	(リーダー) 東田陽博 教授 外11名
(拠点形成概要) 子供の学習、社会性、行動の障害、高齢者の記憶障害や痴呆などの脳機能障害は、現代社会が抱える深刻な問題である。金沢大学には神経細胞やシナプスの脳研究と障害児教育研究のすぐれた実績がある。本研究教育拠点では、脳を育み脳の機能障害を克服するために、大学院等を横断的に跨ぐフロンティア科学研究機構を組織し、3つの革新技术を駆使して、文理架橋型革新脳研究領域を創設する。具体的には (1)低分子RNA技術(RNAi)によるショウジョウバエの発達・学習・記憶関連遺伝子の包括的探索、(2)遺伝子改変技術を用いたマウス神経ネットワーク形成と可塑性の新分子機構の究明、(3)非侵襲的脳機能計測技術を用いた子供の発達・学習・記憶のメカニズムの研究と学習記憶障害の解明をめざす。これらの異なる研究領域を跨ぐ研究教育プログラムを競争的環境と国際的な研究交流のもとに推進し、世界水準の創造的な研究者育成を図ると共に、その成果を広く社会に還元する。	
(採択理由) <コメント> 昆虫とマウスにおける分子レベルでの脳研究と、非侵襲的測定によるヒトの脳研究を統合し、脳の発達と脳障害機構を解明することを目的とした意欲的かつ革新的な拠点形成計画であると評価する。拠点リーダーをはじめ事業推進担当者はそれぞれの研究において国際的に認知された成果をあげており、拠点形成のために十分な基盤を与えるものと判断する。	
<革新的な学術分野であるポイント> 各種実験動物、ショウジョウバエなどを用いた分子レベルでの脳研究と、非侵襲的測定によるヒトの脳研究を統合し、脳の発達と脳障害機構を解明しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	